



サントリー文化財団 「山崎正和アーカイブ」閲覧プラットフォーム公開

公益財団法人サントリー文化財団（理事長 鳥井信吾）は、2025年8月19日（山崎正和氏没後5年の命日）より「山崎正和アーカイブ」閲覧プラットフォームを公開します。（<https://archive.yamazaki-masakazu.jp/>）

2020年8月19日の山崎正和氏逝去の後、ご遺族からサントリー文化財団に「蔵書類」、「資料類（手書き書類等含む）」のご寄贈をいただきました。これを受けて、将来の学術研究に資することを目的とし、寄贈品を整理・記録・保管するとともに、デジタル化したデータベースとしても公開することとしました。

現在、①現物の分類・保管対応、②デジタルデータ作成、③閲覧プラットフォーム開発等を進めており、今回は①現物の分類、保管対応を終えたもののうち②デジタルデータを含めた③閲覧プラットフォームを一部公開するものです。（蔵書約12,000点、デジタル化ページ46,000ページ）

なお、本アーカイブは、「山崎正和記念事業」の一環として作成、運営されています（ニュースリリース No.14443 参照）。

この閲覧プラットフォームは「データベース」と「ギャラリー」から構成されています。

「データベース」は、〈アーカイブ所蔵品〉として、山崎正和氏が所蔵した書籍類データベースや、蔵書の書込み等があるページをデジタル化したデジタルアーカイブを検索・閲覧できます。また、〈山崎正和の活動〉として、著作リストや、山崎正和氏の活動をデータベース化した年譜・出来事等を検索することもできます。

「ギャラリー」は、アーカイブのデータベースに含まれる情報を中心に、色々な切り口のコンテンツを紹介するとともに、アーカイブのさまざまな使い方をご紹介します。

今後もサントリー文化財団は、閲覧プラットフォームも含めた同アーカイブのさらなる充実に努めていきます。

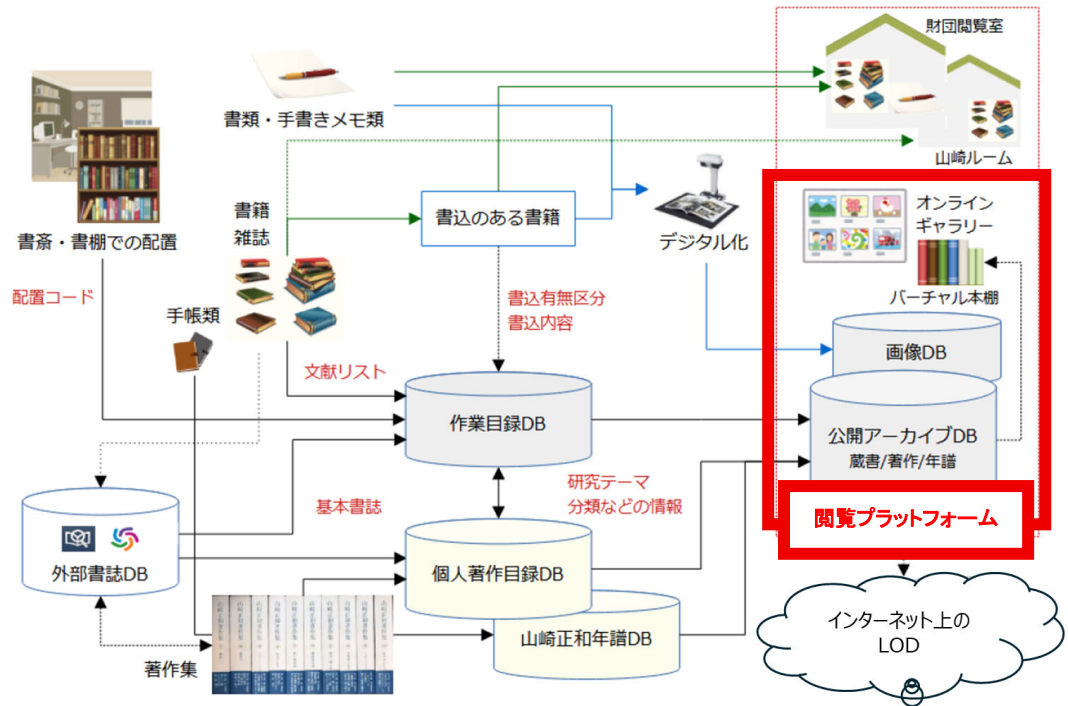
「公益財団法人サントリー文化財団」について

サントリー文化財団は、サントリーの創業80周年を記念して、1979年2月に大阪で設立されました。その目的は、国際化、情報化、高度大衆化社会の時代に応じて、それを支える学術研究の育成、文化活動の振興ならびに国際理解の促進に寄与することにあります。

以　　上

別紙①

〈山崎正和アーカイブ全体像〉



別紙②

〈山崎正和アーカイブ 閲覧プラットフォーム構成〉

The screenshot shows the homepage of the Masahiko Yamazaki Archive. The header includes the site name and navigation links. The main content area is divided into sections: '山崎正和の思考への扉' (Introduction), 'データベース' (Database), 'アーカイブ所蔵品' (Archived Items), '山崎正和の活動' (Activities), and 'ギャラリー' (Gallery). Callouts provide detailed descriptions of these sections.

「データベース」
〈アーカイブ所蔵品〉

■蔵書類データベース
 山崎正和の蔵書目録。一部の書棚はバーチャルで再現しています。

■デジタルアーカイブ
 アーカイブ資料から書込みのある蔵書ページをデジタル化

〈山崎正和の活動〉

■著作リスト
 山崎正和の全著作書誌、初出など掲載情報をデータベース化

■年譜・出来事
 山崎正和の主な活動をデータベース化。年譜などで表示。

「ギャラリー」
 アーカイブのデータベースに含まれる情報を中心に、さまざまな切り口でコンテンツおよび使い方をご紹介します。

別紙③

〈山崎正和アーカイブ閲覧プラットフォームの特長〉

■国際標準に則ったオープンなデータベース

山崎正和アーカイブのデータは国際標準に則って記述されており、多様な情報を柔軟に表現するとともに、外部データとの相互運用を実現しており、LOD^{※1}として国立国会図書館典拠、Wikidata、ジャパンサーチなどの外部データベースともリンクしています。

※1 LOD (Linked Open Data) は、データをウェブページと同様にリンク可能にする Linked Data 原則によって提供されるオープンライセンスのデータです。Linked Data とは、データの ID (ウェブページで言えば URL) を用いてウェブ上からそのデータを取得でき、さらにその中に記述された別のデータ ID を連鎖的にたどっていけるようにする方法です。WWW の発明者であるティム・バーナーズ＝リーが提唱し、世界の美術館、博物館、図書館、文書館や生命科学分野のデータ記述に用いられています。

■情報を多角的に提供する閲覧プラットフォーム

アーカイブのデータベースは、各セクション扉ページにキーワード検索機能を用意します。詳細検索 (SPARQL) を用いると自由な検索が可能です。検索結果から個別データ詳細を共通の形で表示するとともに、それぞれの特徴にあわせた閲覧機能も用意しています。

蔵書類データベースでは「バーチャル書棚」を提示します。これはカタログ情報を用いて分類した仮想背表紙をつくり、整理時に記録した収録書架情報に基づいて復元配置したものです。本の並びからもさまざまなことが読み取れます。

蔵書類のうち書き込みがあるページをデジタル化したデータは、1冊のデジタル化画像をまとめて I I I F^{※2}ビューアで閲覧できます。また書き込みの一部をウェブ注釈モデルで記述し、ビューア上でハイライトしたり、つながりを図示したりする機能も試験導入しています。

著作リストは、主要著作の出版リストを (1) カテゴリ別、(2) 初版の出版年代別、(3) NDC の大分類別の 3 つの切り口で提供します。出版物の詳細から、掲載されている著作のデータや蔵書データへと進んでいくことができます。

年譜・出来事データベースは、生涯の主要な出来事をスクロール可能な年譜上に表示します。また山崎正和氏が残した手帳の記載を順次データベース化しており、これは月間カレンダーの形で閲覧できます。手帳の執筆過程の記述から著作データへとといったつながりも辿ることができます。

※2 I I I F (International Image Interoperability Framework) は、一貫した形での画像アクセスを可能にし、相互運用性を確保するための国際標準です。画像取得だけでなく拡大や回転、一部分の切り出しなどを共通の方法で利用でき、同じビューアで世界の I I I F 準拠サーバーの画像を閲覧できます。

■ギャラリーによるコンテンツの紹介

山崎正和アーカイブのコンテンツに広く接していただくため、検索・閲覧機能と並行して、ギャラリーを設けています。ギャラリーは大きく「コンテンツ紹介」と「使い方シリーズ」に分けて提供していく予定です。

コンテンツ紹介は、テーマに沿ったコンテンツや隠れたつながりのあるコンテンツを取り上げ、アーカイブからの画像とともに紹介していきます。アーカイブ公開時点では「戯曲：世阿弥の世界」と「山崎正和の読書：デジタル化資料選定者の眼」を用意しています。

使い方シリーズは、やや複雑な構造を持つアーカイブをどのように利用できるかの具体的方法を取り上げます。「アーカイブの構成と使い方」は構造の図解、扉ページの構成や検索機能について説明します。「蔵書から作品へ」では、ウェブ注釈モデルを説明しながら、蔵書の書込みから作品までの結びつきを辿っています。

「バーチャル書棚：知識空間の再構成」では、山崎正和氏の書棚を仮想再現したバーチャル書棚について説明します。